

# オンリーワン徳島行動計画(第二幕) 【概要版】 (案)

～ 誇りと豊かさを実感できる「21世紀の徳島づくり」を目指して ～

## 計画の基本的な事項

### 第1 策定の趣旨

徳島県では、平成18年度までの県政推進方策である「オンリーワン徳島行動計画」を策定し、7つの「基本目標」を掲げ、計画に盛り込んだ各種の施策・事業の推進に全力で取り組んできました。

以来、常にオープンに、県民の目線に立ち、スピード感を持って施策展開を図り、県民とともに事業を推進してきた結果、一定の成果をあげてきたところであり、徳島の再生が進んだ今、「目指すべき将来像」を県民とともに描き、その実現に向けた計画を立てていく必要があります。

また、「真の地方分権時代」の幕開けという変革の時代において、時代の流れを見極め、変革を先取りして新しい時代を切り開いていくための「今後の県政を計画的に推進していく基本指針」が必要です。

このため、前計画で取り組んできた「オンリーワン徳島」の実現をさらに加速させ、「進化するオンリーワン徳島」として飛躍させるため、その「第二幕」となる新たな計画を策定するものです。

### 第2 計画の性格と役割・計画期間

「長期ビジョン編」では、2025年頃を展望した「徳島を目指すべき将来像」を示すとともに、「行動計画編」では、これを達成するために「短期・中期的に重点的に取り組むべき方策」を明らかにします。

「短期・中期的に重点的に取り組むべき方策」では、具体的な数値目標や達成年度などの工程を明示し、目標達成のために効果的な施策を重点的に実施する、行動計画です。

計画期間は、平成19年度から平成22年度までの4年間とします。

### 第3 計画の基本理念

計画の基本理念は、引き続き「**オンリーワン徳島**」の実現とします。

20世紀が、「量的拡大」を目指す時代であったのに対し、21世紀は、個性や多様性が尊重され、個人や地域が固有の価値観に基づいた「質的充実」によって「幸福」を追求するまさに「オンリーワン」の時代です。

徳島は、豊かな自然、類い稀な伝統と文化、食の宝庫、さらには、進取の気質に満ちた県民性など素晴らしい宝物を有しています。このような可能性の宝庫「徳島」の魅力や個性を十二分に引き出し、すべての県民が全国そして世界に対し、「徳島こそ」と胸を張れる宝の島「オンリーワン徳島」を築いていく必要があります。

一方、本格的な人口減少・少子高齢社会、地球環境問題など、時代の大きな潮流に加え、明るさの兆しが見えつつも依然として厳しい地域経済雇用情勢、南海地震対策など、引き続き本県を取り巻く様々な課題があり、このような課題に適切に対応した、地域自立型で持続的発展が可能な社会を築いていくことが、今、求められています。

このため、「**オンリーワン徳島**」の実現を基本理念とする県づくりを一層加速し、「**進化するオンリーワン徳島**」として、全国から「徳島こそ」、「徳島ならではの」と言われる施策・事業展開を図り、「徳島発の提案をジャパンスターダートへ」との強い気概のもと、「ピンチをチャンスに替える発想」と「常に時代を先取りする進取の精神」で、すべての県民が「徳島に生まれてよかった、住んでよかった」と、**誇りと豊かさを実感**できる21世紀の徳島づくりを進めます。

# 長期ビジョン編

## 第1 時代潮流と将来展望

### 1 人口減少・少子高齢社会

- ・合計特殊出生率は一貫して低下傾向にあり、2005年には1.26まで低下しています。
- ・日本の人口は減少局面に入り、本格的な「人口減少社会」を迎えています。
- ・2025年には、徳島の人口は約70万人、高齢者の割合は35%程度に上昇と予測されています。(国立社会保障・人口問題研究所の推計)
- ・社会構造の変化に対応した持続可能なシステムの構築が必要です。

### 2 限界があきらかになる地球の包容力

- ・地球温暖化の進行に伴って、海面上昇、異常気象、生態系破壊などの影響が懸念されます。
- ・エネルギー消費が増加し、石油に依存した社会の維持は困難になる可能性が高まっています。
- ・世界的な水不足が進行し、2025年には世界の半数から3分の2で水不足になるとの予測もあります。
- ・暮らしの中で環境に配慮し、環境負荷の少ない経済社会へ再設計が必要です。

### 3 塗り変わっていく世界経済地図

- ・経済のグローバル化が進展し、国家間の制度、市場の統合が進み、国際的競争が激化しています。
- ・東アジア地域は、中国を中心に目覚ましい経済成長をしており、21世紀における世界最大の成長センターになり、世界経済は、アメリカ、EUにアジアを加えた三極構造になることが展望されます。
- ・東アジアでも一体的な経済圏形成に向けた取り組みが進展しています。東アジアとの関係は、我が国や本県の発展を考える上で、生産拠点または市場として、また、競争相手として重要な要素になってきています。

## 4 経済構造の変化

- ・ 独自性を生み出す創造性が競争力の源泉である「知価社会」、「知識経済社会」と呼ばれる時代が到来しています。
- ・ ICTの進展で、多様で小規模な商品需要でも市場として成立（＝「ロングテール」と呼ばれる現象）する可能性があります。規模の経済性は相対的に低下し、大量生産から多品種少量生産の時代へ移行していきます。
- ・ 近年、非正規雇用者の割合が上昇し、雇用形態が多様化し、また、賃金水準の二極化が進み、所得格差が拡大する傾向にあります。長期的には雇用の流動化、能力主義・成果主義の拡大が予想されます。

## 5 ICTの高度化がもたらす社会の劇的变化

- ・ 国は、2010年までに国内全世帯でブロードバンドを利用可能にするとしており、近い将来、世界最先端のネットワークインフラが構築されます。
- ・ 「ユビキタスネットワーク」、「Web 2.0」など、ICTの進展により、知識の集約や協働が容易になり、暮らしや仕事のあり方を劇的に変容させる可能性があります。

## 6 多様・多選択社会へ

- ・ 価値観の多様化が進み、自分のライフスタイルや個性を重視した「選択の自由志向」が高まり、また、「経済的豊かさ」よりも「歴史と伝統」、「自然」、「文化や芸術」を重視する傾向が出てきています。
- ・ 家族、職場、地域社会での人間関係が希薄化する一方、インターネット等を媒介したコミュニケーション等、新たな緩やかなネットワークが広がりつつあります。
- ・ これまでの職場中心の「単属・単線的な社会」ではなく、多様な集団に属しながら価値観や目的を共有し、相互に補完しつつ横へ広がっているネットワーク型の社会になることが予想されます。

## 7 自立・分権型社会

- ・ 中央集権型行政システムは画一性や縦割りの弊害などから行き詰まり、新たな課題に対応するため、地方分権の推進が不可欠となっています。
- ・ 「平成の大合併」で本県も50市町村から24市町村となり、道州制の議論も本格化しています。
- ・ 国、県、市町村の役割は大きく変化し、2025年頃には道州制に移行していることが予想されます。

## 第2 目指すべき将来像

### 21世紀は「オンリーワン」の時代

- ・これまでの社会は、画一性・効率性を追求し、共通の目標として経済的豊かさや物の豊かさといった「量的拡大 = 幸福」をめざすものでした。
- ・それに対し、21世紀は、「新しい豊かさのかたち」として、一人ひとりの個性や多様性を尊重し、個々に固有のオンリーワンの価値尺度による「質的充実 = 幸福」を実現する社会が求められています。
- ・「幸福」は、一人ひとりが自分の価値観に基づき、自分らしい生き方を安心して選択し、目標に向かって挑戦し前進していく中で実感できるものです。
- ・一方、一人ひとりが「幸福」を築いていくための土台となる社会づくりは、個人の努力だけでできるものではなく、私たちの安心と幸せは、人間として助け合える一体感の中にあり、生身の人間がふれあって活力を与えあう協働の中にあります。
- ・従って、私たち一人ひとり、自らが「幸福」になっていく権利を有するとともに、まわりの人や社会を支えていく責任、自然と共生し持続可能な社会を将来の世代に引き継いでいく責任を分担しなければなりません。
- ・また、「幸福」は、自らの価値尺度により生まれてくる感情であり、他との比較で影響を受けるものではなく、「幸福感」を実感する前提は、自分なりの価値観が確立されていることです。
- ・「独自の価値観」が必要なのは、個人レベルだけでなく地域社会も同様であり、利便性、効率性、生産性などを重視する価値観では、地方はいつまでも大都市圏とのギャップを感じるようになります。
- ・つまり、重要なのは「地域の独自性」であり、「他の地域と差別化されたオンリーワンの価値・魅力を創造」し、「そこに住む人々が地域に愛着と誇りを持てる」ようにすることです。
- ・徳島には、豊かな自然環境、阿波踊りや人形浄瑠璃、藍の技術など特色ある文化、「お接待の心」に代表される優れた精神文化、進取の気質に満ちた県民性など、国内外に誇りうる優れた基盤があります。
- ・この恵まれた環境を生かして、「人口減少・少子高齢化の下でも心豊かに暮らせる社会」を他地域に先駆けて構築し、「国内外に評価される誇りの持てる地域社会」を目指していく必要があります。

## **2025年目指すべき将来像**

「質的充実＝幸福」を実現する社会として、次のような将来像を目指して、「オンリーワン徳島」づくりを進めます。

### **(1) 誰もが自分ならではの幸福を実感できる**

#### **「幸齢（幸福に年齢を重ねる）社会」**

年齢・性別・国籍・障害の有無等にかかわらず、一人ひとりの「個性」や「思い」が大切にされ、誰もがお互いの人権を尊重し、安心して暮らしながら、自分ならではの幸せを追求することができる社会

### **(2) 地域における幸福づくりに積極的に貢献する**

#### **「幸献（幸福づくりに貢献する）社会」**

一人ひとりが夢や希望を持って、豊かな地域社会の形成に向け、地域振興や様々な課題解決に積極的に貢献し、助け合いや支え合いといった人と人の絆が大切にされる中で、地域全体における幸福が増大する社会

### **(3) 人・もの・情報の活発な交流により幸福感が高まる**

#### **「幸流（幸福感が高まる交流）社会」**

本県の持つ「国内外に誇りうる優位性」を最大限に活かし、人・もの・情報が活発に交流することにより、新たな産業や文化が創造され、県民一人ひとりの豊かさが増幅し、県民全体の幸福感が高まる社会

## 第3 将来像実現に向けて

### 幸齢社会に向けて

#### 1 新しい高齢者観を確立する

- ・高齢者観を「社会を元気にする存在」へと一新し、高齢者が主役となって仕事や社会に貢献し、生き甲斐を持って自己実現を図る、高齢化に対応した社会への変革が必要です。
- ・そのため、多様な働き方の導入など労働環境の整備、充実した生涯学習環境の整備、多様なコミュニティへの参加機会の提供等が重要になります。
- ・また、「健康寿命」を伸ばすため、生涯を通じた早い時期からの健康づくりが重要です。

#### 2 子育て協働支援社会をつくる

- ・少子化による人口減少は、将来の地域社会の存続を危うくします。持続可能な社会とするため、出生率を人口置換水準（2.07）まで回復させることが必要です。
- ・子育て世代が喜びとゆとりを持って子どもを生み育てられる社会づくりが重要です。
- ・結婚や出産に対する様々な阻害要因を除きながら、社会全体で子育てを支援する「子育て協働支援社会」づくりが必要です。

#### 3 安心セーフティネットを構築する

- ・個人の自己責任が問われる領域が拡大し、社会的弱者が社会的・経済的困難に直面するおそれが高まります。そのため、個人のリスクを社会の中で適切にサポートする体制を構築する必要があります。
- ・教育や雇用の機会の平等を確保するとともに、医療・福祉サービスを必要とする場合でも安心して生活できる環境、再チャレンジが可能な誰もが将来に希望の持てる環境の構築が必要です。

### 幸献社会に向けて

#### 1 活私開公で新たな公共空間をつくる

- ・県民の主体的参加により、「新しい公共空間」（＝ボランティア、NPO、企業の社会的責任など、行政によらない公<sup>おおやけ</sup>）を豊かにしていく必要があります。
- ・「滅私奉公」でも「滅公奉私」でもなく、個々がいきいきと活動することで「公共空間」を開いていく「活私開公<sup>かっしかいこう</sup>」の考え方が重要です。
- ・個人が公共的なものに自発的に参加する際に回路となる、多様なコミュニティ（NPO、自治会、商店会、伝統的自治組織など）の活性化が必要です。

## 2 情報デモクラシーで衆知を集める

- ・ICTの進展で、「利用者参加」や「オープン志向」などの特徴を持つ情報サービスが登場しています。
- ・21世紀は多様な知識を結集し、多様な形態で協働する「衆知」の時代といえます。
- ・多様な価値観を持つ人々が、共に生きる社会の中で合意を形成するための多様な議論の場を設け、より多くの人々によって、よりよい社会を検討できる体制づくりが必要です。

## 3 国内外の課題解決に貢献する

- ・日本や世界が抱える課題に対し、徳島から貢献するという「志」を持つことが必要です。
- ・豊かな森林資源の整備・保全によるCO<sub>2</sub>の吸収、バイオマスエネルギーのフロンティアを目指す取り組み、環境保全型農業の促進などを通じて環境関連の技術集積を進め、世界の環境問題や食料問題の解決に貢献していくことが必要です。

## 幸流社会に向けて

### 1 付加価値創造で世界に発信する

- ・知恵、知識、情報、技術等を生かして、新しい独創的な価値を生み出し、徳島発の価値を国内外に発信し続ける、自立・内発型の地域経済を構築していくことが必要です。
- ・また、グローバル化を好機ととらえ、アジアへの市場展開や海外の優れた人材・企業の受け入れなど、ダイナミズムに富む地域経済をつくり上げていくことが必要です。

### 2 価値を生み出す源泉“人財力”を高める

- ・地域社会を支える人材の育成は、新しい価値を生み出す源泉であり、まさに「人材＝人財」です。
- ・家庭の教育力の回復・向上、高齢者やNPOなどと連携した地域の教育力の再生、学校教育の充実など、地域社会が一体となった人づくりが必要です。
- ・小、中、高等学校に続く形での大学・大学院というこれまでの就学形式にとらわれず、人生の多様な時期に多彩な方法で教育を受けることができる環境整備が必要です。

### 3 中山間地域等の地域力を高める

- ・農山漁村、中山間地域は魅力の源泉であり、それが維持・発展することで徳島の個性や特色が輝くことができます。
- ・多様な人口の獲得や産業の多角化、ICTを活用した地理的ハンディキャップの克服、バイオマスエネルギーの活用など、豊かな自然環境の保全や個性的で魅力的な地域づくりが必要です。

## 第4 新しい徳島づくりへの視点

### 1 人口の概念を変える

- ・全国的な人口減少の中、今後は人口の概念を変えて地域社会を考える必要があります。
- ・「定住人口」に加えて、「交流人口」、「交流居住人口」、「情報交流人口」、「協働人口」といった多様な人口を考え、各人口を切り離すことなく全体で地域をとらえることが重要です。
- ・このため、「とくしま幸住人口」という新たな人口概念に基づき、地域の活力の維持向上を図る視点が必要です。「とくしま幸住人口」は、「徳島に行ってみたい、住んでみたい、住んで良かった」と感じている人々、徳島が好きで愛着を感じることで結びつく徳島ファンとも言える人々です。
- ・「幸住人口」内の多様な人口が相互関連し、相乗効果を生み出すよう取り組み、活発な人・もの・知恵・情報の流れを形成することが必要です。

### 2 地域総文化力を高める

- ・知識や知恵、他との違いといったものが重視される「知価社会」、「知識経済社会」と呼ばれる社会が進展していくことが見込まれます。
- ・このような社会では、環境や歴史、文化などが一層重要となってきます。かつて地域の盛衰を決するのは、産業力や交通力でしたが、これからは情報発信力を含めた「地域の総文化力」です。
- ・また、地方分権が進展し、道州制も展望される中、徳島という地域の一体感や連帯感を醸成し、地域のアイデンティティを形成する核として、文化の重要性は増していきます。
- ・生き方、暮らし方が文化であり、文化を幅広くとらえ、産業や環境、生活の仕方や価値観も含めた地域の総文化力を高めていく視点が必要です。

### 3 21世紀型社会資本の形成と活用を図る

- ・これまで、道路などの社会資本は、人々の暮らしや地域の経済活動に貢献してきましたが、既存ストックの増加と老朽化に対応し、ライフサイクルコストや民間のノウハウなどを考慮した総合的なマネジメントへの転換が必要です。
- ・また、従来型社会資本に加え、「森林・河川等の自然（自然資本）」、「歴史・伝統文化等（文化資本）」、「研究開発成果や技術（知的資本）」、「信頼や互助に基づく人的なネットワーク（ソーシャルキャピタル＝社会関係資本）」なども地域の課題解決や価値向上のための社会資本として位置づけることが必要です。
- ・「21世紀型社会資本」の形成と活用を図る上では、既存ストックを見つめ直すとともに、様々な社会資本を相互に組み合わせることによって相乗効果を発揮するよう工夫するなどトータルなデザインが必要です。

## 第5 具体的将来像（ビジョン）

### 暮らし

#### 健康寿命80歳、生涯現役社会

- ・健康を手助けするシステムの整備や一人ひとりが生活習慣を改善する努力の浸透で、「健康寿命」が伸び、健康で教養豊かな長寿を楽しむ社会が実現しています。
- ・高齢者は、「年金兼業で働く生き方」、「社会貢献的生き方」、「趣味的生き方」など、多様な生き方を選び、「生涯現役」として充実した生活を送りながら地域社会を支えています。

#### ともにいきいき男女共同参画社会

- ・男女共同参画は当然となり、家庭では男女が協力して家事などに取り組み、職場では多様で柔軟な働き方を選択可能で、生活と仕事のバランスのとれた生き方が実現しています。
- ・男女とも個性と能力を生かし、仕事以外でも様々な分野で生き甲斐を感じながら活躍しています。

#### みんなで子育て協働支援社会

- ・会社にとっても子育て環境の整備は不可欠との意識が広がり、企業は子育てと仕事の両立に熱心に取り組んでいます。
- ・子育てコストをみんなで負担しあう「育児保険制度」が導入され、また、経験豊富な高齢者のボランティアによる地域の子育て支援も活用できます。
- ・社会全体で子育てを支える「子育て協働支援社会」が進み、合計特殊出生率が2.07（人口置換水準）に回復しています。

#### 個性・創造性を伸ばすオンリーワン教育

- ・幼小中一貫教育、少人数指導等で基礎を確実に身につけ、高校では特色ある学校づくりが進み、能力・適性を生かせる学校を選択できます。徳島から世界を舞台に活動する人材を輩出しています。
- ・郷土に誇りを持ち、教養や国際性に富んだ若い世代が育ち、また、子どもたちは「働く」ことへの関心と意欲を高め、しっかりとした職業観を身につけています。
- ・障害のある子ども、不登校の子ども等にも対応する多様な教育体制が整えられています。

#### 生涯自分を磨ける学習環境

- ・キャリアアップ支援の奨学金、税制優遇措置など、個人の職業訓練のための自助努力を支援する制度が充実し、学びたい人は誰でも学ぶことができます。
- ・誰もが自由に学習機会を選択して学ぶことが可能となり、様々な人々が積極的に能力開発にチャレンジするとともに、学んだ成果を地域社会に還元しています。

## **安心して将来を描ける労働環境**

- ・多様な雇用形態の中から、価値観やニーズに応じて働き方を選択でき、非正社員を選択しても、能力・勤続年数等に応じて正社員並みの待遇となることが可能です。また、再チャレンジが可能で格差が固定化しません。
- ・S O H Oやテレワークなど時間や場所にとらわれない働き方も普及し、また、障害者も福祉機器の高度化などでいきいきと働き、社会の重要な担い手になっています。

## **いつでも・どこでも安心医療**

- ・地域ごとの医師偏在は解消され、地域の基幹病院には必要に応じて診療科が適正に配置されています。
- ・「遠隔医療システム」や「ドクターヘリ」などにより、広域救急医療体制の整備が進んでいます。
- ・遺伝子診断や電子カルテなどの普及で、個人にあわせた「テーラーメイド医療」、いつでもどこでも等しく高度な医療サービスが受けられる安心の「ユビキタス医療」が実現しています。

## **自分らしい自立ができる福祉社会**

- ・ロボットスーツの技術などで、障害者、高齢者の日常生活の質や社会参加が大幅に向上し、介護者の負担も軽減されています。
- ・自分のライフスタイルを自己決定できることを「自立」ととらえる考え方が浸透し、また、24時間対応の介護医療体制の整備で安心して生活できます。
- ・公的サービスだけでなく、NPOなどが提供するきめ細かなサービスが充実しています。

## **みんなが主役のユニバーサル社会**

- ・民間施設も含めユニバーサルデザインの考え方が浸透し、誰もが安全で安心して快適に利用できる施設になっています。
- ・外国人が身近にいることが当たり前の国際社会となり、文化や習慣の違いを認め合いながら暮らしています。徳島は、多くの留学生が集まる国際留学拠点となっています。
- ・いじめ、虐待、差別のない、ぬくもりのある地域社会が築かれ、それぞれが個性や能力を十分発揮しながら生活しています。

## **誰もが安全・安心なセーフティ社会**

- ・食の安全を確保する仕組みが定着し、安心の食生活が実現しています。
- ・地域住民と警察等が一体となった安全・安心なまちづくりの活動が定着しています。
- ・全地域に自主防災組織があり、耐震改修や緊急輸送路の整備が進んだ「地震に強いとくしま」になっています。
- ・災害予防事業も進み、洪水や土砂災害による人命被害が激減しています。

### 先端産業・ベンチャー企業が集まるとくしま

- ・ L E Dの世界的な研究開発地域として、関連企業が集積しています。
- ・ バイオなどの新産業分野、農業と製造業の融合による新市場開拓、健康・医療クラスターの創成など、先端的産業の集積も進んでいます。
- ・ 海外進出企業の増加や外国人高度技術者の活用が進むなど、海外との経済交流が活発に行われ、産業の国際化が進展しています。
- ・ チャレンジできる環境整備により、創業を目指す起業家が全国から集まり、国内有数の開業率となっています。ベンチャー企業などの活躍により、徳島経済が持続的に発展しています。

### 確立された地域産業ブランド

- ・ 木工業は、機能、デザインとも優れた商品を開発し、全国的にファンが拡大しています。家具のブランドとして「徳島」の名が国内外に浸透しています。
- ・ 機械金属工業では、特徴ある機械加工技術を有する産地として全国的にイメージが定着し、また、阿波正藍、しじら織りの衣類が積極的に情報発信され、機能性の向上に伴い知名度が高まり、全国的に普及しています。

### 新しいライフスタイルを支えるサービス産業

- ・ 高齢者の生活や仕事と育児の両立などを支援する「生活支援サービス」が生まれ、暮らしにゆとりと快適さを提供しています。
- ・ 高齢者にも働く場を提供できるようなサービス業も展開され、大きな雇用の場となっています。
- ・ サービス業の生産性向上で徳島経済は成長し、人口流出もなくなっています。

### 新鮮なとくブランド供給地

- ・ 農業法人の規模拡大や企業の農業参入が進み、農業を目指す若者を安定的に雇用しています。
- ・ 多用途農業用ロボットやL E Dを活用した栽培で、高い生産性を発揮しています。
- ・ バイオ技術で新たなブランドが生まれ、徳島産の食材は味や栄養価の面で高い評価を受けています。
- ・ 野菜や果物は、大型量販店や外食産業との安定的な契約生産が実現しています。
- ・ 天敵の活用など農薬や化学肥料に頼らない栽培技術により、安全・安心で信頼されるブランドを確立しています。
- ・ 水産資源の回復と集出荷体制の効率化で、漁業収入が向上しています。
- ・ 「とくしまブランド」をとり入れた食文化が、アジアなど海外でも定着しています。

## 山村社会を支える森林関連産業

- ・間伐などの手入れが進み、森林資源が充実し、機械の高性能化等で生産性が飛躍的に向上しています。
- ・高齢者から若い世代へと熟練した技術が伝承されながら、安定した林業生産が繰り返されています。
- ・県産木材の供給量が伸び、木造住宅以外でも幅広い分野に利用が拡大しています。
- ・利用できなかった端材なども、バイオマス技術の開発により燃料等での利用が進み、豊かな森の恵みを活用した林業関連産業が発達しています。

## 交流人口でにぎわうとくしま

- ・地域の魅力の源泉である地域資源を大切に守る活動や、心のこもった「おもてなし」により、徳島は魅力あふれる観光地として、競争力のあるブランドに成長しています。
- ・国際航空路線が充実し、多くの外国人旅行者でにぎわう国際観光都市になっています。
- ・映画、テレビ等の制作支援体制が整備され、映画関連企業も多数進出したことで、徳島は「東洋のハリウッド」と呼ばれています。
- ・県南部、西部へは体験型滞在観光を求め、多くの観光客、修学旅行生が訪れています。
- ・世界文化遺産に登録された「四国八十八箇所霊場と遍路道」はお接待、健康をキーワードとした観光資源として注目され、元気を取り戻すメディカルツーリズムが人気を集めています。
- ・交流人口が飛躍的に増加し、地域ににぎわいをもたらしています。

## **地 域 社 会**

### みんなで創る豊かな公共空間

- ・高齢者介護、環境保全、安全・安心なまちづくり、文化など様々な分野でボランティアが活発に活動し、お互いを助け合う地域社会となっています。
- ・助け合いは世代を超えて循環し、地域コミュニティの絆も強まっています。
- ・身近な生活ニーズに応えるコミュニティビジネスやNPO活動が盛んに行われ、NPOは、企業と同程度の賃金が得られ、働く場としても成り立っています。
- ・ICTを活用した情報公開が、行政、医療などあらゆる分野に拡大しています。

### 世界に貢献する「環境首都とくしま」

- ・小さな頃からの教育を通じ、環境に配慮した生活や社会システムに転換し、環境負荷が最小限に抑えられています。
- ・快適さと環境が両立したライフスタイルが広まり、高品質・長寿命の製品を利用し、また、太陽電池など自然エネルギーを最大限に利用することで、家庭から排出されるCO<sub>2</sub>は半減されています。
- ・燃料電池やエタノールで走る自動車の普及、「地産地消」の食生活の広がり、公共交通機関による移動スタイルの定着など、「環境首都とくしま」のライフスタイルは、途上国のモデルともなっています。
- ・木材から低コストでエタノールを製造する技術が確立し、徳島はバイオマスの最先端地域になり、アジア地域の環境問題解決にも貢献しています。

## 将来世代に引き継ぐ豊かな自然

- ・天然ブナ林、数多くの清流、多様な生物を育む干潟、サンゴの見られる海洋まで、全国に誇れる豊かな自然環境は、将来の世代へと大切に引き継がれています。
- ・豊かな水辺空間が各地に整備され、憩いの場、環境学習の場として多くの人々が利用しています。特に、徳島市内の水辺景観は、「東洋のベニス」と称され観光資源になっています。
- ・放置里山林は手入れされ、森林浴など癒しのエリアとして都市住民が積極的に活用しています。

## 人と地域が輝く「あわ文化」

- ・音楽、美術、舞台芸術など様々なジャンルで、個性あふれる多彩な文化活動が行われています。
- ・阿波踊りや人形浄瑠璃などの伝統文化はもとより、地域の生活に根ざした行事、生活習慣などが次世代へ継承されています。
- ・文化資源を受け継ぐだけでなく、自由な発想で再構築し、新しい価値を生み出す取り組みも行われており、新しい「あわ文化」を創造しています。
- ・「あわ文化」は、共通の精神的基盤として根づき、その創造と発信を通じ、心豊かに生きるための新たな価値観を提案し、国内外で徳島の存在感が高まっています。

## みんなの誇りスポーツ王国

- ・プロスポーツの観戦や各種目のスポーツ教室など、年代を問わず、それぞれの目的や好みに応じてスポーツを楽しんでいます。
- ・ヴォルティスとインディゴソックスは、徳島の誇り、シンボルとして戦い続けながら、多くの日本代表選出やプロ野球選手を輩出しています。
- ・駅伝、マラソン、バスケットボールなど様々な競技で国際大会等が開催され、次代を担う青少年に夢と活力を与え、世界トップレベルの選手を多く輩出するなど、競技力は飛躍的に向上しています。

## やさしく便利な交通システム

- ・コミュニティバスや乗り合いタクシーなど、誰もが使いやすい公共交通体系が構築されています。
- ・鉄道の本数増やスピードアップによる利便性向上により、マイカー通勤から利用転換が図られ、通勤時間帯の渋滞が解消されています。
- ・鉄道には燃料電池車両やデュアルモード・ビークル(DMV)が導入されるとともに、バスにもノンステップ燃料電池バスが導入され、誰もが快適に利用しています。

## 交流ひろがる快適交通ネットワーク

- ・四国内の高規格幹線道路網（8字ルート）の整備が進み、近畿圏や四国他県と一体となった快適な高速交通ネットワークが充実しています。
- ・空港拡張で大型機が就航可能となり、新ターミナルのアクセスが強化され交流・物流拠点になっています。また、ソウル便、上海便などの海外定期航路が開設され、日帰り海外出張が可能になっています。
- ・徳島小松島港は西日本地域との連携の中で国際物流・交流拠点へ発展しています。

## 魅力的で美しい街、便利でにぎやかな街

- ・福祉・医療・文化や住民サービス等の集積が進み、「コンパクトシティ」として、徒歩や自転車で暮らせる利便性、快適性に配慮したまちづくりが進んでいます。
- ・街や周辺地域では、自然や歴史・文化に根ざした景観整備を行われ、個性的で魅力的な地域が形成され、市街地では、緑豊かな美しい都市環境の中で快適な都市生活が実現しています。
- ・商店街は、住民参加により運営され、ライフスタイルの変化に対応した魅力的な店舗づくりが行われています。

## 行ってみたい住んで良かった農山漁村

- ・豊かな自然などの魅力にひかれ、多くの方が農産漁村を訪問しています。
- ・近畿圏で働き、週末は徳島の農山漁村という二地域居住も定着し、本格的な定住する人も増えています。
- ・二地域居住者や移住者は、地域コミュニティにも積極的に参加し、農山漁村は、多様な生活者に満ちあふれた活気のある場になっています。

# 行動計画編

## 第1 基本目標

計画の基本理念に基づき、以下の七つの基本目標の達成を目指します。

### 基本目標1 「オープンとくしま」の実現

21世紀型の県政の創造に向け、徹底した情報公開、時代の変化に速応できる大胆な行財政改革、人権尊重、共感・協働による感性豊かな地域づくりを進め、県民と行政の信頼関係を第一にする「オープンとくしま」の実現を目指します。

### 基本目標2 「経済飛躍とくしま」の実現

新たな変革の時代を切り拓くため、時代を先取る産業の育成、徳島の産物・企業としてのブランド化、ニート・フリーター対策など安定した雇用の確保や働きやすい職場環境の整備を進め、未来に伸びゆく「経済飛躍とくしま」の実現を目指します。

### 基本目標3 「環境首都とくしま」の実現

持続可能な未来の創造に向け、地球規模での環境問題への対応、自然との共生、潤いあふれる生活環境づくりなど、斬新な発想や先進的な取組みで環境の世紀をリードする「環境首都とくしま」の実現を目指します。

### 基本目標4 「安全・安心とくしま」の実現

あらゆる危機事象への迅速かつ的確な対応に向け、南海地震や新型インフルエンザ対策、ガンや救急など医療の確保、消費生活・食の安全安心や体感治安の向上を進め、誰もが安心して暮らせる「安全・安心とくしま」の実現を目指します。

### 基本目標5 「“まなびや”とくしま」の実現

21世紀を担う人材創造に向け、いじめ問題や学力育成対策など時代の要請に呼応した教育の醸成、少子化対策などを進め、知性と感性があふれ、未来にはばたく力みなぎる「“まなびや”とくしま」の実現を目指します。

### 基本目標6 「“みんなが”とくしま」の実現

21世紀ぬくもりとやさしさがあふれる福祉社会の創造に向け、高齢者・障害者福祉や団塊の世代対策、男女共同参画立県などを進め、年齢や性別、障害の有無、国籍に関わりなく、誰もが夢と希望を持っていきいきと自己実現できる「“みんなが”とくしま」の実現を目指します。

### 基本目標7 「“にぎわい”とくしま」の実現

新たなステージの幕開けに向け、観光をはじめ国内外との交流促進、文化立県・スポーツ王国の推進、高速道路・空港・高度情報通信網など大交流新時代における基盤整備を進め、活気にあふれる「“にぎわい”とくしま」の実現を目指します。

## 第2 施策の展開

### 1 施策展開にあたっての考え方

基本目標の達成に向け、各基本目標ごとにできる限り目標水準（数値目標）を掲げ、重点的に施策を展開します。

施策の展開にあたっては、

社会の様々な変化を敏感に捉える「感性」

時代を先取りする前例にとらわれない柔軟な「発想」

時機を逸することなく素早く的確に対応する「行動力」

を「基本姿勢」として取り組みます。

また、「県民の目線」、「環境の視点」、「ユニバーサルデザインの考え方」の「視点」をあらゆる施策に取り入れます。

## 2 重点施策

重点的に展開する施策は、以下のとおりです。

### 基本目標1 「オープンとくしま」の実現

#### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
知事部局の情報公開度ランキング(全国)	- (平成17年度)	3位以内 (平成20年度)
「県庁コールセンター」の設置	- (平成17年度)	3箇所 (平成21年度)
入札・契約制度改革のための「全国知事会提案指針」の実現	- (平成17年度)	実現 (平成20年度)
「とくしま県民活動プラザ」サライト・オイスの設置	- (平成17年度)	2箇所 (平成21年度)
国への政策提言数(ジャパンスタンダード)(累計)	21件 (平成17年度)	150件 (平成22年度)
とくしま未来創造プランの策定・推進	- (平成17年度)	策定・推進 (平成19年度)
「人権教育啓発推進センター」事業参加者・利用者数	- (平成17年度)	12,000人 (平成22年度)

重点施策	主な取り組み
1 オープンとくしま体制づくり	徹底した情報公開やパブリックコメント制度の実施など、県民に開かれた県政を推進するための体制づくり 外部専門家による監査機能の充実強化、入札監視委員会での審議など、公正で公平な県政を推進するための体制づくり 行財政改革、人権尊重の社会づくり、県民の参加と協働による地域づくりを推進するための体制づくり
2 県民主役とくしまづくり	「とくしま円卓会議」、「しゃべり場とくしま」、インターネットを活用した提言など、県民との双方向の対話の推進 「県庁コールセンター」を設置し、県民からの問い合わせ等を一元的に受け付けるワンストップ型の対応体制を整備 県民の目線に立ち、県の考え方、方向性について、県民への積極的な情報提供と徹底した情報公開を推進

重点施策	主な取り組み
3 公正で公平な県政づくり	<p>「徳島県公務員倫理条例」、「公益通報制度」、「業務に関する要望、意見等に対し適正に対応するための制度」の適切な運用            一般競争入札の拡大や総合評価落札方式の拡充、入札契約過程の監視の強化など、より一層の入札制度の改革            事業の適正な執行を一層確保するため、監査機能を充実強化</p>
4 共感と協働による地域づくり	<p>「とくしま県民活動プラザ」サテライト・オフィス、「とくしまNPOシンクタンク」の創設などNPOの活動を支援            道路や河川、公共施設の清掃や花づくりを県民、企業、行政が連携して行う「アドプトプログラム」の全県的な普及            公共事業における行政の説明責任、事業実施過程の透明性を図る観点から、様々な手法による住民参加を推進</p>
5 地方分権とくしまづくり	<p>「21世紀の新しい国のかたち」をリードする「徳島モデル」を創るため、国へ積極的に提言            市町村合併を引き続き県を挙げて支援、地方分権社会を担う基礎自治体としての市町村への権限移譲を推進            地域の優れた個性と魅力を生かすための地域づくりを総合的に支援</p>
6 行財政の構造改革の推進	<p>「とくしま未来創造プラン」を策定し、職員の意識改革、職員定員・給与の適正化、財政の構造改革など行財政改革を加速            政策評価による事業見直し、組織再編、既存ストックの有効活用、条例の機敏な改廃制定などを推進            PFIやネーミングライツの導入、指定管理者制度など、新しい手法による公共サービスの提供</p>
7 人権尊重とくしまづくり	<p>県民の人権意識の普及高揚と様々な人権問題の解決に向け、「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」を着実に推進            「徳島県人権教育推進方針」に基づき、あらゆる機会や場を捉えて人権尊重の精神の涵養を図る教育を推進            「人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）」を開設し、様々な人権課題等についての学習・相談等の場を提供</p>

## 基本目標2 「経済飛躍とくしま」の実現

### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
「LEDバレイ推進ファンド」の創設・造成額	- (平成17年度)	40億円 (平成19年度)
LED関連企業数(累計)	10社 (平成17年度)	100社 (平成22年度)
バイオマス利活用モデル地区数(累計)	- (平成17年度)	15地区 (平成22年度)
「コ-ルセ-」等情報通信関連産業の新規雇用者数(累計)	- (平成15年度)	1,000人以上 (平成22年度)
働きやすい職場づくり支援アドバイザー-派遣件数(累計)	- (平成17年度)	120件 (平成22年度)
「とくしまブランド」輸出品目数(累計)	1品目 (平成17年度)	10品目 (平成22年度)
間伐材の搬出材積量	34千m <sup>3</sup> (平成17年度)	100千m <sup>3</sup> (平成22年度)

重点施策	主な取り組み
1 経済飛躍とくしま体制づくり	<p>「LEDバレイ推進ファンド」を設置し、地域経済の活性化を促進</p> <p>地域産業の活性化を促進するため、業界団体が一丸となって実施する「地域ブランド化」に向けた取り組みを支援</p> <p>知的財産の創造、保護及び活用の取り組みを地域に循環させる施策を推進</p>
2 ビジネスチャンス増大プロジェクトの推進	<p>県内企業への優先発注に努め、伝統的特産品、県産木材などの県産品の消費・利用を推進</p> <p>県内企業人が自ら学ぶ「とくしま経営塾・平成長久館」などによる「強い組織」づくりのための人材育成を推進</p> <p>中小企業におけるICT化の促進及び事業継続計画（BCP）の策定による防災力の強化</p>

重点施策	主な取り組み
3 時代を先取るとくしま産業づくり	<p>LED関連企業の集積を目指した「LEDバレイ構想」の一層の推進</p> <p>JSTイノベーションサテライト徳島を利用した研究開発など、産学官共同研究を促進</p> <p>製造業間だけでなく、農業やサービス業等、産業間、異業種間の融合を促進し、新たな産業を創出</p>
4 創業いきいき産業づくり	<p>県内で新たに創業する者等を対象に各種支援を行う制度を創設</p> <p>ベンチャーファンドや販路開拓支援により有望なベンチャー企業を育成</p> <p>バイオエタノールなどバイオマスの生産・利用を担う環境関連産業の創出と環境関連技術を活かした産地づくりや地域づくり</p>
5 新たな雇用と働きやすさとくしまづくり	<p>障害者雇用を促進するための憲章（又は条例）を制定するなど障害者の職業的自立を支援</p> <p>コールセンターも含めた新規企業の誘致や既に立地している企業の新・増設などを積極的に推進</p> <p>ニート・フリーター対策など若年者の職業的自立支援やアドバイザーの派遣など誰もが働きやすい職場環境の整備促進</p>
6 新鮮とくしまブランド戦略の展開	<p>生産から消費に至る一体的な戦略を展開した「とくしまブランド」の浸透や「ブランド産地」等の育成、強化</p> <p>「新鮮なっ！とくしま」号を全国に展開し、県産農林水産物をPR</p> <p>世界にはばたく「とくしまブランド」の確立を目指し、県産農林水産物の輸出を支援</p>
7 林業飛躍プロジェクトの推進	<p>高性能林業機械の導入、低コストで間伐材を搬出できる技術者の育成などにより「林業飛躍」を支える間伐材生産力を増強</p> <p>間伐材の利用促進のため、径級や品質に応じた合理的な流通・加工体制を構築</p> <p>未利用木材資源を木質バイオマスの原料として有効利用するための取り組みを推進</p>

### 基本目標3 「環境首都とくしま」の実現

#### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
「環境首都とくしま創造センター」の開設	- (平成17年度)	開設 (平成21年度)
「とくしま地球温暖化対策推進条例」の制定	- (平成17年度)	制定 (平成20年度)
温室効果ガス排出量	6,695千トン - CO <sub>2</sub> (1990年) 6,022千トン - CO <sub>2</sub> (2010年) 2010年段階で1990年と比べて10%削減	
汚水処理人口普及率	34.3% (平成15年度)	48% (平成22年度)
リサイクル率(一般廃棄物) (産業廃棄物)	18.9% (平成17年度) 55% (平成15年度)	26% (平成22年度) 59% (平成22年度)
希少野生生物保護巡視団体・個人数	- (平成17年度)	25団体・個人 (平成22年度)
とくしま公有林化プロジェクト(とくしま絆の森事業)による森林の取得面積	393ha (平成17年度)	1,200ha (平成22年度)

重点施策	主な取り組み
1 環境首都とくしま体制づくり	<p>「環境首都とくしま創造センター（仮称）」を開設し環境活動の積極的な展開を推進</p> <p>「とくしま環境学習サポートセンター（仮称）」の開設、「学校版環境ISO」の取得など環境教育・学習を総合的に推進</p> <p>「とくしま地球温暖化対策推進条例（仮称）」を制定し本県の自然的、社会的条件を踏まえた地球温暖化対策を推進</p>
2 地球環境にやさしい社会づくり	<p>「とくしま環境県民会議」を中心に、各主体の自主的・積極的な地球にやさしい環境活動を支援</p> <p>太陽光発電や風力発電、バイオマスエネルギー等の新エネルギーの産業や生活レベルまでの導入を促進</p> <p>車両用LED式信号灯器の計画的な整備、ビルや工場の省エネ対策推進のための「ESCO事業」の普及</p>

重点施策	主な取り組み
3 美しく潤いのある とくしまづくり	<p>地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取り組みを推進</p> <p>電線類の地中化や木製ガードレール等（間伐材）の設置など、景観に配慮した公共事業を実施</p> <p>下水道、集落排水、合併処理浄化槽等の整備促進など、「きれいな水環境づくり」の推進</p>
4 しっかり守るいい 生活環境づくり	<p>アイドリングストップ協力店の拡大など、日常生活や通常の事業活動における環境への負荷の低減を推進</p> <p>事業者による自主的な管理の改善を促進することにより、総合的に化学物質対策を推進</p> <p>エコファーマーの育成・支援を通じ、環境への負荷の少ない「持続性の高い農業」を推進</p>
5 とくしま循環の 「わ」社会づくり	<p>リサイクル製品の認定や3Rモデル事業所の推進など、廃棄物の発生抑制、再使用・再生利用の推進</p> <p>優良産業廃棄物処理業者認定制度の創設や不法投棄等撲滅啓発リーダー研修など、産業廃棄物処理の適正化</p> <p>使用済み農業生産資材の適正処理と家畜排せつ物などのバイオマス資源としての利活用の推進</p>
6 自然との共生 とくしまづくり	<p>希少野生生物・外来種対策など豊かな自然環境を支える生態系の適正な保護や管理を推進</p> <p>野生鳥獣による農林産物や生態系被害軽減のため、個体数の調整など生態系に配慮した保護管理を推進</p> <p>自然と共生する公共施設づくり、農村づくり</p>
7 未来を守るとくしま 森林づくり	<p>間伐の実施による広葉樹との混交林化や長伐期施業など多様な森林づくりを推進</p> <p>森林を取得し水源かん養など公益的機能を重視した流域モデル林を造成する「とくしま公有林化プロジェクト」を推進</p> <p>森林に親しむ機会を通じて森林の重要性をPRし、県民との協働により森づくりを推進</p>

## 基本目標4 「安全・安心とくしま」の実現

### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
南海地震発生時における最大死亡者数	約4,300人 (揺れによるもの約2,600人 津波によるもの約1,700人)	0人
県有防災拠点施設等の耐震化率	34% (平成17年度)	70% (平成22年度)
木造住宅耐震診断の実施戸数(累計)	2,144戸 (平成17年度)	10,000戸 (平成22年度)
重点整備河川の整備率	66% (平成17年度)	81% (平成22年度)
とくしま安 <sup>2</sup> 農産物認証件数(累計)	13件 (平成17年度)	60件 (平成22年度)
県立中央病院と徳島大学病院との連携による総合メディカルゾーンの構築	- (平成17年度)	外来・入院・研修研究拠点機能の再編 (平成22年度)
糖尿病死亡率(標準化死亡比)の全国最下位からの脱出	- (平成17年度)	達成 (平成22年度)
地域自主防犯活動団体の活動地域数	60地区 (平成17年度)	180地区(全地域) (平成22年度)

徳島県地震動被害想定調査

重点施策	主な取り組み
1 安全・安心とくしま体制づくり	<p>県の人員配備やインフラのバックアップなどの計画（徳島県庁版BCP）整備など、危機管理体制の整備</p> <p>「全国瞬時警報システム（J-ALERT）」を活用し、地震情報や津波・気象警報の瞬時に伝達するシステムを構築</p> <p>災害対策本部の機能強化、耐震相談の推進、災害関係専門家の育成など、災害に即応できる体制づくりを推進</p>
2 とくしまー0（ゼロ）作戦の展開（南海地震発生時の死者ゼロを目指す）	<p>自主防災組織の活動支援、寄り合い防災講座の開催、地域防災推進員の養成など地域防災力の強化</p> <p>住宅の倒壊から助かる命を助けるため、既存木造住宅の耐震診断を支援</p> <p>災害時において防災拠点等となる県の施設について「地震防災対策行動計画」に基づき着実に耐震化を推進</p>

重点施策	主な取り組み
3 自然災害・安心 県土づくり	<p>吉野川及び那賀川の河川整備計画の早期策定、無堤地区の解消に向けた堤防整備や内水対策などを促進</p> <p>洪水、高潮等による被災を予防する河川、海岸事業や土砂災害を予防する砂防、治山事業の推進</p> <p>異常気象時における事前通行規制区間の解消に向けた道路整備や集落の孤立防止のための生命線道路の整備を促進</p>
4 とくしま食の安全 安心ブランドの 推進	<p>「食の安全安心推進条例」に基づき、生産から消費に至る一貫した食の安全・安心対策を総合的に推進</p> <p>県独自の履歴管理制度「とくしま安<sup>2</sup>農産物認証制度」により安全で安心な農産物供給を推進</p> <p>安全・安心で環境にも配慮した産地づくりに向け、I P M技術の確立・普及を推進</p>
5 とくしま安心くらしづくり	<p>県立中央病院の改築、徳島大学病院との連携による外来・入院・研修研究拠点機能再編を進め「総合メディカルゾーン」を整備</p> <p>消防防災ヘリにドクターヘリ機能の導入、災害拠点病院の体制整備及び小児救急電話相談体制の構築など救急医療体制の充実</p> <p>徳島大学との地域医療共同研究の創設、地域医療研修の拡充など、地域医療を担う医師等の養成・確保</p>
6 みんなでつくる う！健康とくしま づくり	<p>身近な地域で本人の意向を尊重したがん治療、生活習慣病の発症や重症化の予防など、三大疾病対策を推進</p> <p>「健康とくしま応援団」の拡充など、県民総ぐるみ運動による糖尿病など生活習慣病対策の推進</p> <p>新型インフルエンザやS A R S (重症急性呼吸器症候群) などの感染症対策の充実強化</p>
7 とくしま体感治安 向上プロジェクト の推進	<p>夜間初動体制と機動力の強化、捜査支援システムの効果的な運用など警察機能の強化</p> <p>「安全で安心なまちづくり条例」に基づき、地域自主防犯活動の促進など、犯罪の防止に配慮したまちづくりを推進</p> <p>県民総ぐるみによる飲酒運転撲滅運動の展開</p>

## 基本目標5 「まなびや、とくしま」の実現

### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
スクールカウンセラーの全公立小・中学校への配置	58校 (平成17年度)	全校配置 (平成19年度)
少人数学級(35人を上限とする学級編制)の拡大	小学校1・2年に導入 (平成17年度)	中学校1年に新規導入 (平成22年度)
「コミュニティ・スクール」モデル校数(累計)	- (平成17年度)	10校 (平成22年度)
「徳島県立総合高等学校」の創設	- (平成17年度)	創設 (平成20年度)
ファミリーサポートセンター事業実施市町村数	7市町 (平成17年度)	15市町村 (平成22年度)
「出逢いきらめきセンター」会員団体登録数	- (平成17年度)	50団体 (平成22年度)
栄養教諭の配置市町村数	- (平成17年度)	全市町村 (平成20年度)

重点施策	主な取り組み
1 “まなびや、とくしま体制づくり	新しい時代に対応した本県教育の指針となる新たな計画を策定 次世代育成行動計画「徳島はぐくみプラン」の着実な推進と取り組みを支える人材の育成 市町村と連携し「徳島県食育推進計画」を着実に推進
2 未来に「はばたく力」育むとくしま教育づくり	スクールカウンセラーの全公立小・中学校配置など、いじめ・不登校等に対応する支援体制を充実 少人数学級の拡大、「中高一貫教育」の全県展開など、児童生徒の個性や能力を伸ばす教育を推進 教育・福祉・医療・労働が連携し、病弱等を伴う発達障害等の生徒に教育的支援を行う高等養護学校の整備を推進

重点施策	主な取り組み
3 地域とともに歩む学校づくり	<p>「コミュニティ・スクール」を導入し、地域に開かれた学校づくりを推進</p> <p>「放課後子ども教室」の開設を促進し、様々な体験活動や地域住民との交流活動などを推進</p> <p>学校安全ボランティア（スクールガード）活動、「子ども110番の家」の活用など、幼児・児童生徒の安全確保を推進</p>
4 学び立県とくしまづくり	<p>21世紀の人材を創造するため、「徳島県立総合大学校」を設置し、県民のニーズに応じた学習を総合的に支援</p> <p>県立図書館を核とした県下図書館の連携による「とくしまネットワーク図書館」を構築</p> <p>中学生・高校生の社会的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図る学習を推進</p>
5 未来を拓く青少年づくり	<p>青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応するため、「徳島県青少年センター」を再編整備</p> <p>魅力ある青少年活動の機会や場を提供するなど、心豊かで主体的に行動できる元気な、自立した青少年の育成を推進</p> <p>「徳島県若者サポートステーション」において若年無業者（ニート）等の就業を支援</p>
6 子どもを育てるなら“とくしま”づくり	<p>「きらめき出逢い・交流促進事業」を推進し、官民協働による男女の出逢いの場づくりを支援</p> <p>子育て家庭を地域全体で支えるため、育児の相互援助活動を行う「ファミリー・サポート・センター」の設置を促進</p> <p>全国トップクラスの「乳幼児等医療費助成制度」の堅持、不妊治療費助成限度額の拡大など、子育て家庭の経済的負担を軽減</p>
7 食育先進県とくしまづくり	<p>全市町村における栄養教諭の配置、食育推進計画作成など、総合的な食育の取り組みを支援し「とくしま型食生活」を推進</p> <p>学校給食での地場産物の活用、食の大切さを学ぶ体験の場づくりなど、学校における食育を推進</p> <p>食育推進リーダーの育成、コンビニエンスストアと連携した取り組みなどにより食育を推進</p>

## 基本目標6 「“みんなが、とくしま」の実現

### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
県審議会等に占める女性の割合	25% (平成15年度)	50% (平成22年度)
「はぐくみ支援企業」認証件数(累計)	- (平成17年度)	100件 (平成22年度)
「シルバー大学院」ICT講座入学者数	25人 (平成17年度)	75人 (平成21年度)
障害児自立支援に向けた利用者負担の軽減	負担軽減 (平成18年度)	負担軽減 (平成20年度)
介護予防リーダーの養成者数(累計)	- (平成17年度)	400人 (平成22年度)
ノンステップバス(路線バス)の台数	43台 (平成17年度)	69台 (平成22年度)
「移住交流支援センター」の設置地域数	- (平成17年度)	10地域 (平成22年度)

重点施策	主な取り組み
1 “みんなが、とくしま体制づくり	<p>「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」の普及・啓発及び適切な運用</p> <p>「徳島県男女共同参画基本計画」、「とくしま長寿プラン」、「新徳島県障害者施策長期計画」等の着実な推進</p> <p>外国人が住みやすいまちづくりを推進するため、「徳島県国際フレンドシップ憲章(仮称)」を制定</p>
2 男女共同参画立県とくしまづくり	<p>男女共同参画交流センター「フレアとくしま」を核として、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進</p> <p>県審議会委員等の女性の登用、県庁女性職員の県政運営への参画推進など、女性の政策・方針決定過程への参画を促進</p> <p>仕事と家庭の両立ができる職場づくりに積極的な企業の表彰など、女性が働きやすい「ワーク・ライフ・バランス」の展開</p>

重点施策	主な取り組み
3 高齢者いきいき 「生涯現役」とく しまづくり	<p>サテライト講座の開設、ICT講座入学者数の拡充など、「シルバー大学院」を充実</p> <p>高齢者が地域社会の様々な分野で活躍できるよう、「生きがいづくり推進員（シルバー人材バンク）」を養成</p> <p>中高年齢者の就業を支援するため、「徳島県就労支援プラザ」において求人情報の提供や職業相談等を実施</p>
4 障害者「自立と社会参加」のとくしまづくり	<p>障害児のいる家庭が安心して子育てできるよう、障害児施設の利用者負担を軽減</p> <p>「障害者交流プラザ」を活用し、地域社会で生きがいを実感できる障害者の社会参加を推進</p> <p>障害者の働く意欲と能力に応じて働ける社会づくりを推進するため、就労訓練施設における就労支援機能を強化</p>
5 共助・共生のまちづくり	<p>介護予防の普及啓発や介護予防リーダーの養成など、介護予防に重点を置いた健康づくりを推進</p> <p>人材バンク活用による障害者スポーツ指導員の派遣など、障害者のスポーツ活動や生きがいづくりの支援強化を推進</p> <p>動物愛護、適正飼養の普及啓発をする動物愛護推進員の委嘱など、人と動物がともに暮らせる地域づくりを推進</p>
6 ユニバーサルデザインとくしまづくり	<p>「ユニバーサルデザイン表彰」など、地域に暮らすすべての人が暮らしやすいまちづくりを推進</p> <p>対向車接近表示システム設置、電線類の地中化や段差のない歩道整備など、利用者の視点に立った公共施設等の整備</p> <p>ノンステップバスの導入支援など、みんなが利用しやすい公共交通機関の整備促進</p>
7 活力みなぎるとくしまづくり	<p>「団塊の世代対策」の推進のため、移住・交流の総合窓口「移住交流支援センター」の整備などを推進</p> <p>「アグリテクノスクール」の充実に加え、県下各地でも農業が学べる「地域あぐりシステム」を整備</p> <p>住民自らの発想・提案に基づいた事業実施など、農山漁村地域の創意工夫を反映した元気な農山漁村づくりを推進</p>

## 基本目標7 「“にぎわい、とくしま”の実現

### 【主な目標水準（数値指標）】

指 標 名	現況	目標値
とくしまスポーツ憲章の制定・褒賞制度の創設	- (平成17年度)	制定・創設 (平成19年度)
阿南安芸自動車道「日和佐道路」の供用率	- (工事着手5.9km) (平成15年度)	67% (一部供用6.2km 残区間工事展開) (平成22年度)
映画、ドラマ、CM等の口ケ撮影支援件数(累計)	88件 (平成17年度)	200件 (平成22年度)
ドイツ・ニーダーザクセン州との友好提携	- (平成17年度)	提携 (平成22年度)
過疎地域におけるCATVサービス提供市町村の割合	6.9% (平成15年度)	100% (平成22年度)
「文化立県とくしま推進基金」の創設	- (平成17年度)	創設 (平成20年度)
競技力向上のための中学・高校連携ゾーン数	- (平成17年度)	16ゾーン (平成22年度)

重点施策	主な取り組み
1 “にぎわい、とくしま体制づくり	<p>本四道路における通行料金の軽減化や高速道路の利用促進、交流の拡大、観光需要の誘発を図る体制整備を推進</p> <p>地域の交流拠点や防災拠点となる「道の駅」の整備を県下全域に展開</p> <p>「とくしまスポーツ憲章（仮称）」を制定し、全国大会等での成績優秀者を表彰・褒賞するなど、県民スポーツを振興</p>
2 交流ひろがるとくしまづくり	<p>徳島飛行場の滑走路拡張など広域交通ネットワークの拠点となる空港、港湾の整備</p> <p>四国横断自動車道や阿南安芸自動車道など四国を循環する高速交通ネットワークの整備や主要幹線道路の整備</p> <p>都市部の渋滞対策のため、放射環状道路などの道路網の整備、渋滞の著しい交差点の改良や鉄道の高架化の推進</p>

重点施策	主な取り組み
3 観光立県とくしまづくり	<p>「東洋のハリウッド」を目指し、県内を舞台にしたテレビ、映画、CM等のロケ撮影の支援・誘致を推進</p> <p>本県の持つ地域資源を体験型の観光資源として活用、「観光検定」の実施など県民参加型の観光客誘致を推進</p> <p>徳島ならではの製品の創出やその販路拡大を推進し、本県物産の魅力を全国に発信</p>
4 笑顔と活気あふれるとくしまづくり	<p>国民文化祭、近畿高等学校総合文化祭、地域ICT未来フェスタなど、県の施策に関連した大会、会議を開催</p> <p>開催経費や郷土芸能の招へい費等の支援を行い、大会・会議の誘致を促進</p> <p>ドイツ・ニーダーザクセン州との友好提携を目指し、経済・文化・教育交流などを通じ地域の国際化・活性化を推進</p>
5 e-とくしまづくり	<p>地上デジタル放送とブロードバンドに対応した「全県CATV網構想」を推進</p> <p>市町村やNPO法人等と連携し、県民のICT利活用能力の向上に資する人材を育成</p> <p>「地域ICT未来フェスタ」を開催し、徳島ならではの地域情報化の取り組みを全国に向けて情報発信</p>
6 文化立県とくしまづくり	<p>「文化立県とくしま推進基金」を創設し、ベートーベン第九日本初演の地「とくしま」発信事業などを実施</p> <p>「あわ文化」を創造・発信するため、平成19年度に「国民文化祭」を、平成20年度に「近畿高等学校総合文化祭」を開催</p> <p>「四国遍路文化」を人類共有の財産として将来の世代へ引き継ぐため、「世界遺産」登録を目指した取り組みを推進</p>
7 とくしまスポーツ王国づくり	<p>「全国大会での躍進を目指すスポーツ表彰・褒賞制度」、「競技力向上スポーツ指定校制度」により、競技力向上を推進</p> <p>スポーツ合宿や大会の誘致、「総合型地域スポーツクラブ」の整備促進により、スポーツを通じた健康と地域振興の推進</p> <p>スポーツ振興や新たなにぎわいづくりを実現するため、「とくしまフルマラソン」を開催</p>

## 第3 計画の推進方策

### 1 推進にあたっての考え方

計画に基づく「新しい徳島づくり」は、県民一人ひとり、NPO（民間非営利団体）、ボランティア、地域の団体、高等教育機関、企業、行政など多様な主体が、役割分担しながら、連携・協働して進めることが不可欠です。

このため、

県民への徹底した情報公開と積極的な情報提供を行うとともに、双方向で県民との対話を図りながら、計画の推進や見直しを進めます。

NPO・民間事業者の持つ活力の導入や大学等の高等教育機関の人的・知的資源の活用を図るなど、積極的に連携するとともに、市町村・国や近隣府県などとも幅広い連携を図ります。

中期的視点から財政健全化方策の確立に努め、持続可能な財政運営を行うとともに、効率的な組織運営を図ります。

### 2 進行管理と見直し

県民ニーズや社会・経済・財政の様々な事情の変化に適切に対応し、計画の円滑な推進を図るためには、計画の進捗状況を把握し、適切な進行管理を行う必要があります。

このため、

点検評価サイクル（いわゆる「PDCAサイクル」）による政策評価の手法を活用し、

事業の「必要性」や「目的妥当性」等の観点から見直しを行うとともに、計画策定以降の社会経済情勢等の変化や新たな県民ニーズに即応するため、新たな取り組みの検討を進め、

毎年度、計画に位置づけられた重点施策や主要事業の達成状況などを点検・評価するとともに、「徳島県総合計画審議会」及び「同審議会計画推進評価部会」における評価を受け、毎年度計画の改善見直しを行います。